

日本銀行  
帯広事務所長

## 田原謙一郎



先日、地元の方々とサイクリングに出掛けた。おいしいジンギスカンの店で昼食をとった後、最寄りの道の駅を折り返してスタート地点まで戻るコースは、トータル60キロ近く。トカプチ400には及ばないものの、サイクリング初心者には十分過ぎる距離で、翌日は心地よい筋肉痛に見舞われた。

# かちまい 論壇

## コラボしたくなる十勝

道路の両側に広がる畑では、小麦の穂がしゃんと立ち並び、ジャガイモの葉も伸びていた。直播（ちよくはん）のビートの葉はまだ若く、苗から植えられた先輩ビートに追いつこうとしているようだった。大豆や小豆もかわいらしく芽を出していた。少し青みがかった緑色のタマネギ畑も通りすぎた。

牛の飼料用トウモロコシの畑が出てくる。酪農家から委託されて栽培しているのだろうか。耕畜連携が広がる現場に出合った気がした。

足元、さまざまな生産資材の価格が上昇し、収益環境が厳しさを増す中で、農業関係者の懸命な取り組みが続いている。後継者や働き手の確保については、農業に限らず、商工・サー

共通する課題でもある。一筋縄ではないか多くの課題に直面する中で、十勝の最大の強みは、熱意ある人の前向きな取り組みを地域全体で応援する気風だと感じる。それは、コロナ禍でも十勝管内の新設会社が増えたことにもみえてくれる。さらに、熱意ある人は、十勝の中だけでなく、他所にも大勢いる。何かの縁で一緒になるこ

ビジネス業界でも同様の課題だろう。付加価値の高いものをつくるべきだ、雇用機会の創出が必要だ、地域の魅力発信による関係人口を増やす取り組みうんぬんとかねて聞かれる指摘は、人口減少時代の地域活性化に向け

とがあれば、その人たちと共に発展していく姿を目指すように「とかち愛」を進化させていくのではないか。相方にしてみれば、こんな頼もしいことはない。一人で頑張るより大きな成果が得られる気がする。

そうした目でみると、民間口ケットの発射や、宇宙港を準備するという壮大な構想の推進では、十勝と道内外の関係者が連携して研究や事業を進めている。

老舗企業の経営のバトンを外から来て当地で創業した若き起業家が引き継ぐとか、地域コミュニティをつくる新たな事業で地元交通機関がAIなど新たな業界の企業と連携する動きなどもみられる。

経営統合した3大学の農・商・工の専門分野が連携し、教育研究を進展させていくことも期待されている。

当地に赴任してから2年近く、濃淡はあるが常にコロナ禍だった。これからは、夏の花火大会をはじめ3年ぶりに復活となるイベントが続くほか、インバウンドが徐々に回復することも期待される。農業はもちろんのこと、十勝経済全体が豊穰の秋を迎えることを祈りたい。